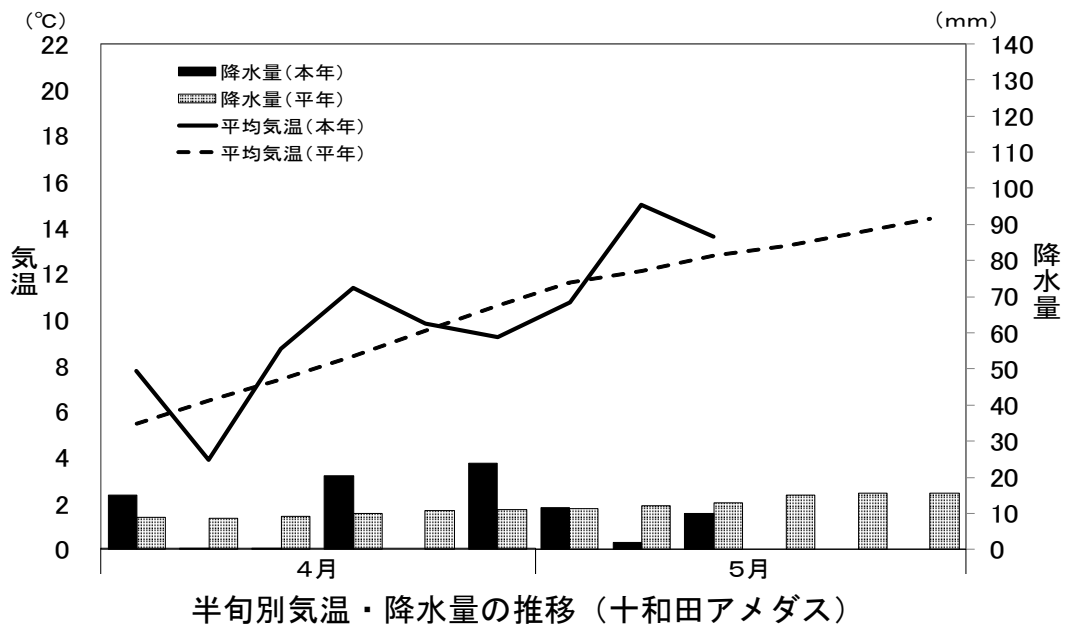


上北農業生産情報 第2号

令和3年5月21日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

- 田植えは5月25日頃までに終わらしましょう!!
- ながいも、ごぼうの土壌消毒で使用するクロルピクリン剤は、安全・適正に処理しましょう!!
- 農作業事故には十分注意し、事故のないように心がけましょう!!

気 象



<4月>

平均気温は、上・下旬は平年並みで、中旬は平年を上回った。
日照時間は、上・下旬は平年を上回り、中旬は平年並みであった。
降水量は、上・中・下旬とも平年並みであった。

【4月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	5.8	6.1	11.1	11.6	-0.1	0.5	76.2	61.2	15.5	16.9
中旬	10.1	7.8	15.9	13.5	4.0	2.0	63.2	60.9	21.0	20.1
下旬	9.5	10.1	15.7	16.1	2.7	3.8	84.4	64.7	24.0	22.7

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

<5月上旬>

平均気温は平年に比べ1.0℃高く、日照時間は平年を上回り、降水量は平年を下回った。

【5月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	12.9	11.9	18.2	17.8	6.7	6.0	71.4	62.7	13.5	23.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

東北地方 1か月予報（5月15日から6月14日までの天候見通し）

令和3年5月13日 仙台管区气象台 発表

- 暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並みか少ないでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 は種後の好天により、出芽及びその後の苗の生育はおおむね順調であった。苗立枯病の発生は少なかった。
- 2 田植え作業は、十和田市や東北町の一部で5月8日頃から始まり、管内全体の田植え始め（5%到達日）は平年より1日早い5月14日であった。一部ほ場で田植え後の強風による葉先枯れや低温による葉の黄化がみられる。

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

田植え後は苗の活着と生育を促進させるため、「昼間止水・夜間かんがい」の基本を守り、温暖な日は2cm程度の浅水で水温を上昇させ、低温の日は苗が冠水しない程度の4～5cmのやや深水で管理する。

2 病虫害防除

- ア 補植用苗をほ場に放置するといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分する。
- イ 畦畔のイネ科雑草はカメムシの発生源となるので、開花・結実する前にこまめに刈り取る。

3 除草

- ア 一発処理除草剤の連用水田で、昨年アゼナ類やホタルイ類が残った場合は、SU抵抗性雑草と推定されるので、これらの雑草にも有効な成分を含む一発処理除草剤や体系処理剤（初期＋中期剤）に変更する。
- イ 除草効果を高めるとともに水質汚染を防ぐため、除草剤散布後7日間は落水や掛け流しは行わない。

小 麦

《生育状況》

- 1 生育観測ほ（5月10日現在）の生育は、草丈は平年を上回り、茎数は平年を下回った。
- 2 生育観測ほの出穂期は、平年より6日早い5月16日であった。
- 3 下位葉でうどんこ病の発生がわずかに見られるが、発生量は平年より少なく、その他病虫害の発生も全般的に少ない。

【生育観測ほの生育状況（草丈、茎数は5月10日調査）品種：ネバリゴシ】

市町村	調査地	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	止葉抽出期	出穂期	開花期
十和田市	相坂	本年	62.0	726	5月8日	5月16日	(5月25日)
		平年	47.1	843	5月9日	5月22日	5月30日
		前年	58.0	1,073	5月7日	5月16日	5月28日

注) 平年値は平成14～令和2年の平均値(止葉抽出期のみ平成28～令和2年の平均値)

注) 本年の開花期は、出穂期からの積算気温での見込値。

《今後1か月の主な作業》

1 病虫害防除

ア うどんこ病・赤さび病

生育が旺盛なほ場を中心にうどんこ病や赤さび病の発生が予想されるので、病虫害発生予察情報やほ場の状況を確認し、適期防除に努める。

うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生した直後に薬剤散布を行うと効果的である。

アミスター20フロアブルは、出穂後に使用するとその後の赤かび病防除時にカビ毒汚染低減効果が劣る場合があるので、出穂後は使用しない。

イ 赤かび病

赤かび病は、人畜に有毒なカビ毒が生じるため、防除を徹底する。

開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。その後、天候不順が続く蔓延の恐れがある場合は追加防除を行う。

開花期までうどんこ病の防除を行っていない場合は、1回目の薬剤散布時にうどんこ病にも登録のある薬剤を使用し、同時防除を行う。

大豆

《今後1か月の主な作業》

1 施肥

施肥方法は、原則として全量基肥とする。

【施肥量の目安】 (10a 当たり施肥量)

区分	窒素	りん酸	加里
基肥	2～3kg	10～15kg	8～10kg

注) 前年に野菜類を作付したほ場は無肥料(窒素成分)とする

2 種子準備

紫斑病及び鳥害・虫害対策のため、必ず種子消毒を行う。

3 は種

下表を基準に、は種時期が早い場合は疎植、遅い場合は密植して生育量を確保する。

【品種別栽植様式(おおすず)】

は種期	うね幅	栽植本数	は種量
5月中旬～5月下旬	60～80cm	20,000本程度/10a	7～8kg/10a
5月下旬～6月上旬	60～80cm	20,000～30,000本/10a	7～12kg/10a

4 除草

は種後出芽前に土壌処理剤を散布する。土中で種子が萌芽していると薬害を受ける恐れがあるため、は種後3日以内の散布が望ましい。

ほ場が乾燥している場合は、散布液量を多めにする。

ながいも

《今後1か月の主な作業》

1 植付け

ア 100～150gの子いもは、頂芽を切除して5月下旬～6月上旬に植え付ける。

イ 切いもは120～150g程度に切断して、5月下旬～6月上旬に植え付ける。

ウ 種子生産のための小切片による2年子生産は、5月下旬～6月上旬に植え付ける。

2 支柱立て・ネット張り

萌芽揃い前までにネット張りを完了する。

3 施肥

基肥量は、10a 当たり窒素成分で6～10kgを基準とし、時期は利用効率の良い萌芽期（萌芽が50%の頃）に施用する。

にんにく

《生育状況》

- 1 生育観測ほの生育は、草丈が平年を上回り、生葉数及び茎径は平年並みである。
- 2 一般ほ場の生育は、4月後半の乾燥による葉の黄化も回復しており、順調な生育である。

【5月10日現在の生育】

市町村名	調査地	年次	植付期 (月日)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	茎径 (mm)
七戸町	榎林	本年	10/17	69.1	7.2	17.7
		平年	10/2	62.3	7.4	18.1
		前年	9/26	72.7	7.6	22.3

注) 平年値は、平成8年産から令和2年産までの平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病害虫防除

ア 各種病害は、降雨が発病のきっかけとなるので、気象予報等を参考に降雨前の予防防除を行う。

イ ネギアザミウマ、ネギコガ等の害虫は早期発見、発生初期の防除に努める。

ウ さび病及び春腐病の防除に当たっては、使用薬剤の選択(総使用回数・収穫前日数)に注意しながら防除を徹底する。

2 とうの摘み取り

抽だいが始まったら随時見回り、とうを摘み取り、球の肥大を促す。とうの摘み取りは、総苞(とう先端部全体を包んでいる葉)が葉鞘から完全抽出した株に対して行う。

春だいこん

《生育状況》

- 1 生育観測ほ(トンネルマルチ栽培)の生育は、4月の気温、日照時間、降水量ともに平年を上回ったことから地上部は平年並み、地下部は平年を大幅に上回っている。

4月28日にトンネルの除覆が行われた。

- 2 一般ほ場の生育はおおむね順調。4月第6半旬からトンネルの除覆作業が始まっており、病害虫の発生は例年同様に少ない。生育観測ほと同様、地下部の生育は順調である。

【5月10日現在の生育(品種:春の星、栽培法:トンネルマルチ)】

市町村名	調査地	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
おいらせ町	内山平	本年	3/20	36.2	20.5	396.5
		平年	3/21	35.3	20.8	228.0
		前年	3/22	26.3	17.6	166.7

注) 平年値は令和2年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 収穫

3月下旬には種した作型では、5月下旬頃が収穫期となるため、根部の肥大状況をよく確認し、適期に収穫する。

2 病害虫防除

キスジノミハムシの発生がみられるほ場では、トンネル除覆後に防除する。

春夏にんじん

《生育状況》

1 生育観測ほ（トンネル栽培）の生育は、4月の気温、日照時間、降水量が平年を上回ったことから、葉長は平年を上回り、葉数は平年並み、根重は平年を大きく上回っている。

2 一般ほ場の生育はおおむね順調で、トンネルの除覆作業が5月第2半旬から始まっている。病害虫の発生はみられない。

【5月10日現在の生育（品種：彩誉7、栽培法：トンネル）】

市町村名	調査地	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
六戸町	上吉田	本年	3/12	21.1	5.0	6.8
		平年	3/14	19.3	4.9	3.7
		前年	3/12	22.9	4.3	3.6

注) 平年値は令和2年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 管理作業

トンネル除覆作業、間引き作業及び除草管理を適期に行う。

2 病害虫防除

ニンジンハネオレバエの発生がみられるほ場では、トンネル除覆後に防除する。

ごぼう

《生育状況》

生育観測ほ（三沢市猫又）のは種は5月1日で、平年より1日遅かった。

《今後1か月間の主な作業》

1 畑の準備、土壌くん蒸剤の使用

ア 排水対策を徹底し、堆肥の施用や土壌診断に基づいた施肥により、土づくりを行う。また、やけ症を未然に防止するため、未熟有機物や過剰な堆肥は施用しない。

イ 土壌くん蒸剤の使用にあたっては、人畜への被害や周辺作物にドリフトしないよう対策を徹底する。特に、クロルピクリン剤を使用する場合は、すぐにポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆し、使用済みの空き缶は、適切に処分する。

2 は種

ア 土壌くん蒸剤の使用に伴い使用した被覆資材を除去後、くん蒸剤の臭いがないことを確認する。

イ は種の際は、土壌の水分状況に留意する。シードテープの深さは、土壌水分が十分なときは0.5～1cm程度、乾燥の心配がある場合は2～3cm程度に調整し、出芽を揃えるため、植え溝は丁寧に鎮圧する。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの植付期は平年より10日早く、萌芽期は2日早い5月4日であった。草丈・茎数はそれぞれ平年比93%・100%となっている。
5月1日から芽出し及び芽欠き作業が行われた。
- 2 一般ほ場のマルチ栽培の萌芽は、平年並みの5月第1半旬から第3半旬にかけて進み、生育はおおむね順調で、芽出し作業が行われている。

【5月10日現在の生育(品種：メークイーン、肩黒透明マルチ)】

市町村名	調査地	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本)
三沢市	庭構	本年	3/27	5/4	11.0	2.3
		平年	4/6	5/6	11.8	2.3
		前年	3/27	5/9	7.0	1.7

注) 平年値は令和2年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 追肥、中耕・培土
着蕾期(40~50%の株が蕾を付ける時期、5月下旬~6月上旬)に窒素成分で10a当たり4~5kgを追肥し、中耕・培土を行う。
- 2 病虫害防除
6月中旬になると疫病が発生しやすくなるので、発生前からの予防防除を主体に定期的に薬剤散布を行う。また、同一薬剤の過度な連用は避ける。

りんご

《生育状況》

十和田市米田地区の開花日は、「ジョナゴールド」が平年より7日早く、「王林」が8日早く、「ふじ」が3日早かった。

【本年度の生育ステージ】

調査地	品種	年次	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
十和田市米田	ジョナゴールド	本年	3/27	4/8	4/30	5/10	5/14
		平年	4/5	4/15	5/7	5/13	5/20
	王林	本年	3/29	4/8	4/27	5/6	5/10
		平年	4/6	4/16	5/5	5/10	5/16
	ふじ	本年	4/1	4/13	5/5	5/11	5/14
		平年	4/8	4/19	5/8	5/13	5/18

注) 平年値：ジョナゴールド・王林は平成22~令和2年の平均値、ふじは平成19~令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 病虫害防除
黒星病の重点防除時期なので、りんご病虫害防除暦に記載された薬剤を、降雨前に10日間隔で散布し防除を徹底する。
- 2 摘果
摘果は実止まりを確認後、すみやかに実施する。
果実形質の良し悪しが判然としない落花15日後頃までは一つ成り摘果とし、判別が可能になった時点から仕上げ摘果を行う。ただし、「つがる」などのように早期落果の多い品種は、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。

仕上げ摘果は標準的な着果程度を目安に、「陸奥」、「世界一」は落花15日後頃までに、その他の品種では落花25日頃までに終わるようにする。

キク

《今後1か月間の主な作業》

- 1 夏秋ギク
 - ア 芽かき
切り花の品質向上のため、わき芽は小さいうちにかき取る。
 - イ 病害虫防除
白さび病やアブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類が多発する時期なので、ほ場をよく見回って早期発見に努め、防除を徹底する。
- 2 秋ギク
 - ア 苗の養成
採穂に当たっては、太さが揃い充実したものを選択し、長さ5cm程度に調整して、2cm×2cm程度の間隔でさし芽を行う。
 - イ 定植床の準備
10月出荷の作型は、6月上旬～下旬に定植できるよう計画的に作業を進める。
土壌pHの矯正と基肥の施用は、定植2週間前までに済ませ、土に十分馴染ませておく。
初期の水分不足は、生育の遅れを招くので、定植の数日前から十分かん水をしておく。
 - ウ 定植
苗は、1～2cm程度発根したものを定植する。定植した後に軽くかん水して活着を促進する。
 - エ 定植後の温度管理
日中は25℃以上にならないように管理する。

飼料作物

《生育状況》

- 1 生育観測ほ(十和田市：5月10日調査)は、草丈48.7cm(前年比98%、平年比100%)であった。
- 2 生育が早いほ場では、5月10日からオーチャードグラスの出穂が始まっている。

《今後1か月間の主な作業》

牧草の刈取りは、出穂始期から出穂期に行い、遅くとも開花始期までに終え、乾草またはサイレージに調製する。その後、速やかに追肥し、必要に応じて除草剤を散布する。

サイレージ用とうもろこし

《今後1か月間の主な作業》

- 1 は種
10a当たり栽植本数は、極早生種で8,000本、早生種で7,000本、中生・晩生種で6,000本を標準とし、遅くとも5月中には種を終えるようにする。
- 2 雑草防除
各ほ場で例年発生が多い雑草の種類に応じて除草剤を選択し、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。